

事業所名 株式会社さくらみち
ちびっこルームあはは (児童発達支援) 支援プログラム (参考様式) 作成日 2024年 8月 1日

法人 (事業所) 理念 私達の考える「あはは療育」は、「あ=愛」「は=育む」「は=励む」そして「あはは」とみんな笑顔という意味を込めて名付けました。大事なお子様ひとりひとりに合った知育・心身の発達・感受性・自主性・社会性を高め、引き出し、愛情を込めて接し、励む心を育てるとい意味を込めています。

支援方針 個々に合った支援の方法を見つけ、適切に対応することで、社会性・協調性を育て、豊かになるよう療育します。当事業所では個別対応も重視して行っており、1人1人の状態にあったモンテッソーリの教材を取り入れた遊びや学習、生活動作の練習、言語訓練等の療育を行います。

営業時間	10時 00分 から 18時 00分 まで	送迎実施の有無	あ) なし
------	-----------------------	---------	-------

支援内容	具体的な活動や支援の環境
------	--------------

健康・生活	(a)健康状態の把握 健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行う。 その際、意思表示が困難である子どもの障がいの特性及び発達の過程・特性等に配慮し、小さなサインから心身の異変に気づけるよう、きめ細かな観察を行う。 (b)健康の増進 睡眠、食事、排泄等の基本的な生活のリズムを身につけられるよう支援する。また、健康な生活の基本となる食を営む力の育成に努めるとともに、楽しく食事出来るよう、口腔内機能・感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下・姿勢保持・自助具等に関する支援を行う。さらに、病気の予防や安全への配慮を行う。 (c)リハビリテーションの実施 日常生活や社会生活を営めるよう、それぞれの子どもに適した身体的、精神的、社会訓練を行う。 (d)基本的な生活スキルの獲得 身の回りを清潔にし、食事、衣服の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。 (e)構造化等により生活環境を整える 生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるよう環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。	・登園時の検温、必要時の手洗いなどに継続して取り組みます。 ・個々の健康状況を把握するとともに、保護者と連携し生活リズムを整える事や、健康に過ごせるよう活動を計画し家庭とも連携し取り組みます。 ・お子さんの機能に合わせた食事提供を (関係する専門職と確認しながら口腔機能に合わせた形態の提供と機能に併せた咀嚼、嚥下で食事が取れるよう支援します。 (その際には、本人、介助する大人も安心、安定した姿勢で食事がとれるよう専門職と連携します) (摂食訓練・訓練コップ、平スプーン、かっぱえびせん等個々に併せた用品を用いる) ・備食への対応はお子さんの状況を家庭との連携の中で把握しその取り組みは、無理の無いよう支援します。給食の提供を行う事は様々なメニューを視覚、臭覚、触覚で経験することも支援として取り組みます。 ・着替えはお子さんひとりひとりの年齢や状況に応じ目標を確認します。目線に向けて、声掛けて自分の行為に気づく事や協力動作を引き出す、増やす、自立に向ける等の取り組みを行います。 ・排泄自立の取り組みはお子さんの状況を大人が先ず知り特性を踏まえ場面になれること、排尿感覚をスモールステップで家庭連携し取り組みます。 ・大人の声掛けや促し、自分で気づき取り組むなど、達成目標に応じた対応 (声掛け、視覚的な掲示、構造化等) で取り組みます。 ・物を見る事から、物や状況に合わせた体や手指の使い方を活動のなかで取り入れ、生活に必要な基本的技能の向上に繋がるようにします。
-------	--	--

運動・感覚	(a)姿勢と運動・動作の基本的技能の向上 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。 体全体のメカニズムや、体の動かし方を知る。 (b)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 姿勢の保持や各種の運動・動作が困難なばあ、姿勢保持装置など、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるよう支援する。 (c)身体の移動能力の向上 自力での身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。バランス感覚を習得。 (d)保有する感覚の活用 保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう眼鏡や補聴器等の各種の補助機器を活用できるよう支援する。 (f)感覚の特性 (感覚の過敏や鈍麻) への対応 感覚や認知の特性 (感覚の過敏や鈍麻) を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。	・日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や運動・動作の改善及び習得、筋力の維持向上を図る。活動の中で椅子や机を用いた支援において正しい姿勢の習得を目指します。 ・持っている視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分活かせるよう必要に応じ他工夫を行い遊びを通し支援を行う。また眼鏡、補聴器などの補助器具を効果的に活用し支援します。 ・歩く、走る、くぐる、跳が、のぼる、さうにから下がることや道具を使う縄を跳がなどを通し姿勢を保持する、上肢下肢の運動した動きの獲得、経験を遊びの中で経験します。 ・お子さんの状況に合わせた運動遊びや親子遊びの中で、意識して身体を使う事 (粗大運動) を通し、視覚・聴覚・触覚・前庭覚・固有覚を統合的に活用できるように支援し、姿勢保持や力加減、バランス感覚などの向上を促します。 ・視覚、聴覚、固有感覚などを保持する感覚を統合的に経験、活用することで身体の機能だけではなく集中する力、持続する力、コミュニケーションの能力も繋がります。 ・楽しく活動ができるよう屋内、戸外の活動を取り入れ場面や季節に合わせた活動を行い経験を広げていきます。 ・トレーニング・・・各目的に合わせた運動効果を支援する。 ・スイング遊具・・・力加減、目の動き、姿勢 ・ボルダリング・・・集中力、手足の位置、ボディイメージ ・うんてい・・・体重を感じる、空間認知、運動コントロール ・すべり台・・・速度や傾きを感じる。加わる力を感じる。 ・大型積木・・・想像力、創造性、抽象思考
-------	--	---

本人支援 認知・行動	(a)感覚や認知の活用 視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。 (b)知覚から王道への認知過程の発達 環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知仮定の発達を支援する。 (c)認知や行動の手がかりとなる懸念の形成 物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手がかりとして活用できるよう支援する。 (d)数量、大小、色等の習得 数量、形の大きさ、重さ、色の違い等の習得のための支援を行う。 (e)認知の偏りへの対応 認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理出来るよう支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こだわりや偏食等に対する支援を行う。 (f)行動障害への予防及び対応 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切行動への対応の支援を行う。	・障害特性に応じた視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用し必要な情報を収集しやすいよう、色、音、絵、写真、道具を使い認知機能の発達を促す支援を行う。 ・活動の中で情報を理解しやすいように視覚化 (写真、カード等) 用いて見える化しメッセージを自ら選択し行動につなげられるよう支援します。 ・集団遊びでは、ルールと言葉と視覚的に示す工夫をし、理解し、理解して意欲的に取り組めるように支援します。さらに、「また、やりたい!」「少し難しそうだけどやってみよう!」 ・という意欲に繋がるよう、自ら取り組む事を大切に、「できた!」「やった!」という成功体験が積めるようにも支援します。 ・活動参加は「見る参加」「部分的参加」「大人と一緒に参加」も肯定的に捉え、スモールステップの支援をします。 ・外部刺激が弱い場合は、個室等 (空間) に配慮する。 ・トランポリン・・・空間イメージ ・音楽療法・・・音楽で体を動かしながら、ストップアンドゴーなど、体から学んでいく。
---------------	--	---

言語 コミュニケーション	(a)言語の形成と活用 具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつけ、言葉の習得、自発的な発声を促す支援。 (b)受容言語と表出言語の支援 話し言葉や各種の文字・記号等を用い、相手の糸を理解や、自分の考えを伝えるなど、言葉を受容し表出する支援。 (c)人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 個々に配慮された場面ににおける人との相互作用を通し、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援。 (d)指差し、身振り、サイン当の活用 指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達が出来よう支援。 (e)読み書き能力の向上のための支援 障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。 (f)コミュニケーション機器の活用 各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援。 (g)手話、点字、音声、文字、触覚、平易な表現等多様なコミュニケーション手段を活用し、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援。	・人に伝えようとする意欲を大切にします。要求と共に拒否の気持ちも大切にします。 ・言葉、できる表現方法 (発声、身振りなど) を大人が受け止め応答することやより良い表現方法を伝えます。不適切な表現についてもより良い表現方法を伝えます。 ・不適切な表現についてもより良い表現方法の見本を示します。できた時にはそれを受け止め人に伝え、伝わった経験を増やします。(そのことで望ましくない言動の減少にも繋がります。) ・活動の中に相手を意識することや、感情の言語化、表現の仕方などを伝え個々に応じた表出の場面をつくります。 ・表出を促す場面は、自由遊びを含む全てのプログラム場面で想定されており、その都度、望ましくない言動をそのままにせず、その場で望ましい言動を伝え、促し、お互いに心地よいコミュニケーションが取れるよう、繰り返し丁寧に関わります。 ・言葉の組み立てが出来よう様、配列カード等使用。 ・ボルダリングにて指の調整機能を整える。
-----------------	--	--

人間関係 社会性	(a)アタッチメント (愛着行動) の形成 人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援。 (b)模倣行動の支援 遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。 (c)感覚運動遊びから家畜遊びへの支援 感覚機能を使った遊びや運動機能を動かせる遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 (d)1人遊びから共同遊びへの支援 周囲に子どもがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊び依を行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊ぶ共同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 (e)自己の理解とコントロールのための支援 大人を介在して自分のできること、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるように支援する。 アンダーレーニングをし、感情コントロールができるよう支援する。 (f)集団への参加への支援 集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援する。 場面や人との関わりが上手に出来る様にソーシャルスキルが学べるよう支援する。	・安心できる大人との関係性を作ることを基盤とし、そこから周りの状況にも気づき周囲の人や物への興味、関心、関わる支援をします。 ・集まりや活動の中で大人が見本となり表現の方法や相手の関わり方を知り、行動し社会性や人との関わる経験を支援します。 ・お子様の特性を理解しひとりひとりに合わせた声掛け、行動への支援を行う中で気持ちや感情の調整が出来る様に支援します。 ・集まりや集団遊びの中で、ルールや順番の理解など、周りの状況に気づき、合わせた行動が取れるように支援します。 ・自由遊びでは、場や物の共有をする中で、対人・対友達とやり取りする機会を設定し、人間関係や社会性の基礎となる経験を積めるように支援します。 ・1人で、相手と一緒に(大人、こども)、集団で取り組むことを活動の中で取り入れ社会性、対人関係の育ち、芽生えを支援します。 ・スヌーズレン・・・気持ちの安定をはかるよう支援する。 ・不登校への支援・・・学校と相談しながら連携を取っていく。
-------------	---	---

家族支援	保護者様の困りごとや悩みの軽減 保護者プログラム (懇談会、学習会) 個別面談 (家族支援) NCプログラム等を用いて、お子様の発達段階に合わせた支援の確認と説明を常時行う。	移行支援
------	--	------

地域支援 地域連携	学校訪問支援	職員の質の向上	スキルアップ研修、プリセプター制度、マナー研修、感覚と運動の高次化理論研修等
--------------	--------	---------	--

主な行事等 ハロウィン、夏祭り、クリスマスコンサート、そうめん流し等